編集後記

暖かい春の便りがあちこちに届いているでしょうか？本誌が届く3月は東日本大震災からちょうど10年になります。我々には多様性があり，同じような被害でも，感じ方・立ち上がる力は様々でした。同じメッセージでも受け止め方が異なり，個々の対話も重要でした。

さて，2編の原著論文，1編の資料，2編の公衆衛生活動報告とバラエティに富んだ第68巻3号をお届け致します。

第1編はヤングケアラーの生活満足感や主観的健康観について，公立高校の生徒を対象に行ったアンケート調査の結果です。ヤングケアラーとは，「家族にケアを要する人がいる場合に，大人が担うようなケア責任を引き受け，家事や家族の世話，介護，感情面のサポートなどを行っている，18歳未満の子ども」のことですが，このような子どもたちでは，生活満足感が低下したり不健康感を感じたりするなど悪影響が生じていることが示唆されています。ヤングケアラーの定義はまだしっかり定まってはいないとは思いますが，このような状況の若年者層があることに留意し，支援する必要性が考えられました。

第2編は高齢者における服薬薬剤成分数と口腔機能低下との関連を調べた原著論文になります。薬剤成分数で8種類以上の投薬を受けていると，口腔の機能に何らかの問題を有していました。多剤併用が行き過ぎているような場合には，口腔機能の低下が隠れている可能性も視野に入れておく必要があると考えられます。

第3編は地域における高齢者サロンで実施したロコモーショントレーニングの効果に関する公衆衛生活動報告になります。ここでは，一人以上のサロンメンバーが講習会を受けたうえで，他のメンバーに指導する形式の事業となっています。ロコモだった者は3か月でロコモ5の得点が低下し，またロコモ陽性者の割合が減少していました。より多くの高齢者や比較的に関心の薄い層にもトレーニングを広められる可能性が考えられました。

第4編は，新型コロナウイルス感染症対応の経験と教訓からみた，教育研究機関と保健所の連携に関する公衆衛生活動報告です。社会医学系の大学院学生が保健所支援活動を行った際の記録が詳細にまとめられており，今後も起こりうる他の新興感染症発生時や感染再拡大時に備え，貴重な基礎資料となっています。

第5編は，高齢化が進行する地域における2013年度から2018年度にかけての要介護原因疾病の変化を記述した資料になります。男性では，要介護重度の原因疾病として生活習慣病の関与が依然として大きいという結果でした。一方，女性では，年齢層に関わらず骨折や転倒の割合が5年間で増加していました。原因は明らかではありませんが，今後，生活習慣病対策に加え，転倒・骨折予防対策の強化も必要と考えられました。

大変な日々が続きますが，先月から新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種が始まり，新たな光が差してきているように思います。このワクチン接種に対する受け止め方もまた様々と感じています。このような時だからこそ，個々の違いや多様性を大事にしながら進めていく必要があるのだろうと思っております。

（目時弘仁）

次号予告（第68巻・第4号）

原　著

東日本大震災および平成27年関東・東北豪雨を経験した住民の日常における情報収集行動と被災経験，生活背景との関連……桂　晶子，他

フィットネスクラブ新規入会者の退会に関連する心理的要因：前向きコホート研究……菊賀信雅，他

高齢者の動態的な健康ライフを生命・生活・人生の3次元で捉える主観的QOL尺度の作成ならびにその信頼性と妥当性の検討…吉田真二，他

東日本大震災被災地域の高齢者における新規転倒発生要因の検討：RIAS Study　…久野純治，他

Information

Five-year disease-related risk of mortality in ambulatory frail older Japanese……Ayumi KONO, et al.

資　料

オランダにおける新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大とその対応……田中宏和